

令和7年度

事業報告



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

石川県支部



ごあいさつ

日本赤十字社石川県支部

支部長 山野 之義

このたび、令和8年3月27日付をもちまして、日本赤十字社石川県支部支部長を拝命いたしました。社業の発展のために誠心誠意努めてまいり所存でございますので、何卒皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、赤十字活動の推進につきましては、平素より県民の皆様及び地区・分区はじめ関係の皆様から深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年能登半島地震、令和6年奥能登豪雨では、日本赤十字社は、発災当初から全国の支部、赤十字病院、血液センター、奉仕団といった赤十字の総合力を発揮して、医療救護活動や、こころのケア活動、数多くの救援物資の配送など、被災された方々の「いのちと健康、尊厳を守る」ため全力で取り組んでまいりました。

また、義援金につきましては、全国の皆様から日本赤十字社にお寄せいただき、その全額を石川県が設置した義援金配分委員会に送金いたしております。赤十字には令和8年3月までに、地震分として430億円を超える額が、豪雨分として25億円を超える額が寄せられており、改めて心より感謝申し上げます。

地震の発災から2年4か月余りが経過した現在、被災地では、住民の方々の懸命な取組や、県内外の多くの方々の温かいご支援により、復興に向けた動きが進展しております。石川県支部としても、現地の声に寄り添い、仮設住宅におけるリラクゼーションの提供など、被災地の自立を支えるための支援を継続してまいります。また、このたびの被災経験を踏まえ、救護活動に必要な資機材の整備、救援物資の備蓄、今年で100周年を迎える救急法等講習会や防災セミナーの普及など、地域の防災・減災力を強化する活動にも力を入れてまいります。

金沢赤十字病院では、令和6年能登半島地震、令和6年奥能登豪雨において、いち早く医療救護班、こころのケア班を派遣し、また、被災地病院からの入院患者を受け入れるなど、災害拠点病院としての役割を果たしました。また、平時から地域における中核病院として、安全で質の高い医療サービスを提供し、地域に根差した最適な医療を提供するため、地域包括ケア病棟等を有効に活用し、地域医療連携強化、救急医療の充実を図ることにより、地域の幅広い医療ニーズに対応できるよう努めております。

赤十字血液センターにつきましても、国内献血による国内自給を基本理念とした安全で安心できる血液確保が求められている中、県民の皆様方の献血により、医療機関が必要とする輸血用血液を安定供給することができました。

日本赤十字社は、我が国における救護活動の先駆者として明治10年から活動を続け、来年5月に創立150周年を迎えます。近年、全国各地で自然災害が激甚化・頻発化する中、日頃の備えとしての救急法や健康生活支援講習等の普及、赤十字奉仕団の育成強化や青少年赤十字活動の推進、国際赤十字と連携した人道危機に対する支援活動も実施しております。こうした国内外における赤十字事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって支えられております。今後ともよろしくようお願い申し上げます。

最後になりますが県民の皆様方におかれましては、今後とも赤十字事業に対しまして、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

目 次

1	評議員会等の開催状況	1
(1)	評議員会	1
(2)	監査委員による監査	1
(3)	金色有功章等伝達式及び支部長感謝状贈呈式	2
(4)	石川県日赤紺綬有功会総会	2
2	社資収納状況調	3
(1)	令和7年度社資収納実績	3
(2)	社資収納額の推移（10年間）	3
(3)	令和7年度地区・分區別一般社資収納状況	4
(4)	令和7年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況	5
(5)	令和7年度納入会費額別会員（個人）数	6
(6)	令和7年度納入会費額別会員（法人）数	7
(7)	令和7年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数	7
3	義援金・海外救援金	8
(1)	義援金	8
(2)	海外救援金	8
(3)	日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」（海外救援金）	8
4	災害救護体制	9
(1)	救護班	9
(2)	救護要員用装具の保有状況	9
(3)	救護用資機材の保有状況	10
(4)	NBC災害用資機材	10
(5)	DMAT装備	11
(6)	地区・分区における救援車配備・整備状況	11
5	災害救護・救援活動及び訓練	12

(1) 災害救護・救援活動	12
(2) 防災訓練等への参加	12
(3) 救護員に対する研修	13
(4) 防災教育事業	14
6 救 援 物 資	15
7 その他救援活動	16
8 看 護 師 養 成	16
9 救急法・健康生活支援講習等の普及	17
(1) 講習会の開催状況（総括）	17
(2) 養成講習会等の開催状況	18
(3) 開催地別講習会開催状況	20
(4) 救急法等指導員在籍状況	21
(5) 指導員の研修等	21
10 赤 十 字 奉 仕 団	22
(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況	23
(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況	24
(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況	24
(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催	24
(5) 赤十字ボランティア研修会の開催	24
(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動	24
(7) 奉仕団員による支援活動	25
(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』	26
11 青 少 年 赤 十 字	27
(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況	27
(2) 指導体制の充実・強化	29
(3) メンバーの活動状況	29
(4) 国際理解・親善活動	29
(5) ボランティア活動	29

(6) 普及活動	30
(7) 指導用教材資料の貸し出し	30
12 国際活動	31
13 医療事業	32
(1) 患者数	33
(2) 診療科別患者数	33
(3) 診療単価等	33
14 医療・保健等の社会事業	34
15 血液事業	34
(1) 安全な血液製剤の安定供給	34
(2) 献血者の安定的確保	35
(3) 効率的な事業運営	36
(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進	37
(5) 造血幹細胞事業の推進	37
(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和7年度）	38
16 決算状況	40
(1) 令和7年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書	40
(2) 令和7年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	41
17 日本赤十字社石川県支部役員名簿	42

1 評議員会等の開催状況

令和7年度における評議員会等の開催状況は、次のとおりである。

(1) 評議員会

第1回評議員会

期 日 令和7年6月6日(金)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 13名

議 事

・議案第1号

令和6年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出決算等の承認について

第2回評議員会

期 日 令和8年1月23日(金)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 12名

議 事

・議案第1号

令和7年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出補正予算(案)等について

・議案第2号

令和8年度 事業計画(案)及び地区分區別社資目標額(案)について

・議案第3号

令和8年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出予算(案)について

(2) 監査委員による監査

期 日 令和7年5月28日(水)

会 場 日本赤十字社石川県支部 講習室

出席監査委員 岸弘市氏、高澤良英氏、武田純氏

日本赤十字社石川県支部一般会計、金沢赤十字病院特別会計の令和6年度歳入歳出決算及び石川県赤十字血液センターの業務に係る監査が実施され、いずれも適正であると認定された。

(3) 金色有功章等伝達式及び支部長感謝状贈呈式

期 日 令和7年8月29日(金)

会 場 石川県庁行政庁舎 4階 特別会議室

表 彰

日本赤十字社金色有功章	個人3名、法人1社
日本赤十字社銀色有功章	個人2名、法人4社
日本赤十字社社長感謝状	個人2名、法人3社
石川県支部長感謝状	法人1社、2地区分区

(4) 石川県日赤紺綬有功会総会

期 日 令和7年9月17日(水)

会 場 ANAクラウンプラザホテル金沢

出席会員 33名

議 事

- ・令和6年度石川県日赤紺綬有功会事業報告及び収支決算の承認について
- ・令和7年度石川県日赤紺綬有功会事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について

その他

- ・赤十字活動の近況報告
- ・有功会視察旅行の報告
- ・オーケストラ・アンサンブル金沢演奏会

ヴァイオリン 坂本久仁雄氏

チェロ 富田 祥氏

石川県立音楽堂館長 表 正人氏



石川県日赤紺綬有功会総会



オーケストラ・アンサンブル金沢演奏会の様子

2 社資収納状況調

(1) 令和7年度社資収納実績

区 分		令和7年度			令和6年度 実績額(B)	増減額 (A)-(B)
		目標額	実績額(A)	達成率		
一般社資	地区分区扱	千円 134,121	千円 100,862	% 75.2	千円 98,719	千円 2,143
	支部直扱	11,879	125,909	1059.9	55,755	70,154
	計	146,000	226,771	155.3	154,474	72,297
法人社資		12,000	24,279	202.3	35,477	-11,198
計		158,000	251,050	158.9	189,951	61,099

(2) 社資収納額の推移(10年間)

年 度	一 般 社 資		法 人 社 資		計	
	金 額	前年度比	金 額	前年度比	金 額	前年度比
平成28年度	千円 142,579	% 94.3	千円 12,079	% 102.8	千円 154,658	% 94.9
29	136,398	95.7	10,823	89.6	147,221	95.2
30	137,373	100.7	10,137	93.7	147,510	100.2
令和元年度	146,615	106.7	12,798	126.3	159,413	108.1
2	172,876	117.9	14,762	115.3	187,638	117.7
3	147,851	85.5	23,802	161.2	171,653	91.5
4	153,696	104.0	19,084	80.2	172,780	100.7
5	181,883	118.3	23,168	121.4	205,051	118.7
6	154,474	84.9	35,477	153.1	189,951	92.6
7	226,771	146.8	24,279	68.4	251,050	132.2

(3) 令和7年度地区・分區別一般社資収納状況

地区・分區	目標額	実績額	達成率	前年度比
金 沢 市	51,733,000 ^円	33,720,210 ^円	65.2 [%]	93.4 [%]
七 尾 市	6,730,000	5,491,123	81.6	125.0
小 松 市	11,752,000	11,267,950	95.9	99.1
輪 島 市	3,237,000	946,100	29.2	—
珠 洲 市	1,570,000	2,140	0.1	—
加 賀 市	7,039,000	5,102,419	72.5	97.0
羽 咋 市	2,705,000	2,535,850	93.7	99.1
か ほ く 市	4,577,000	4,346,839	95.0	104.1
白 山 市	12,307,000	9,237,516	75.1	96.8
能 美 市	5,586,000	4,682,380	83.8	93.5
野 々 市 市	7,365,000	7,435,600	101.0	104.1
川 北 町	586,000	587,300	100.2	100.8
津 幡 町	5,462,000	4,808,609	88.0	99.6
内 灘 町	3,213,000	2,445,895	76.1	95.4
志 賀 町	3,265,000	3,595,160	110.1	403.2
宝 達 志 水 町	1,533,000	1,492,562	97.4	111.5
中 能 登 町	2,043,000	2,050,000	100.3	97.8
穴 水 町	1,081,000	1,097,406	101.5	129.6
能 登 町	2,337,000	16,510	0.7	85.3
市 町 計	134,121,000	100,861,569	75.2	102.2

(4) 令和7年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況

分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比	分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比
野 町	円 760,000	円 463,374	% 61.0	% 104.0	三 和	円 922,000	円 703,079	% 76.3	% 100.4
弥 生	890,000	582,338	65.4	102.1	三 馬	1,244,000	543,197	43.7	98.9
中 村 町	926,000	466,157	50.3	93.3	米 泉	728,000	563,299	77.4	96.5
十 一 屋	677,000	427,894	63.2	90.3	富 樫	862,000	395,350	45.9	100.1
泉 野	1,595,000	1,460,960	91.6	100.3	伏見台	1,169,000	511,650	43.8	83.8
長 坂 台	874,000	553,350	63.3	79.5	額	895,000	526,383	58.8	85.6
新 豎 町	924,000	421,700	45.6	95.5	四 十 万	483,000	285,000	59.0	102.7
菊 川	1,070,000	782,659	73.1	96.1	扇 台	1,062,000	882,734	83.1	91.8
材 木 町	1,249,000	626,188	50.1	100.0	長 田 町	663,000	497,900	75.1	103.1
味噌蔵町	1,096,000	612,923	55.9	93.3	戸 板	1,013,000	708,677	70.0	101.8
長 町	342,000	254,500	74.4	101.2	西	565,000	390,527	69.1	99.1
松ヶ枝	453,000	365,900	80.8	94.5	二 塚	900,000	563,090	62.6	89.6
長 土 塀	686,000	548,100	79.9	89.4	安 原	756,000	471,200	62.3	97.4
芳 斉	422,000	318,201	75.4	97.1	大 徳	2,606,000	1,212,540	46.5	84.8
此 花	266,000	190,640	71.7	90.7	金 石 町	1,256,000	826,879	65.8	89.6
瓢 箪	575,000	427,715	74.4	96.1	大 野 町	385,000	251,950	65.4	88.8
馬 場	570,000	498,643	87.5	99.3	小 立 野	1,248,000	979,600	78.5	98.8
浅 野 町	652,000	344,706	52.9	101.0	崎 浦	2,269,000	1,475,981	65.0	87.3
森 山	1,302,000	776,106	59.6	89.7	内 川	114,000	94,150	82.6	86.7
小 坂	1,693,000	1,297,284	76.6	103.2	犀 川	467,000	261,095	55.9	75.3
千 坂	1,320,000	836,167	63.3	88.4	湯 涌	136,000	194,200	142.8	99.6
夕 日 寺	664,000	666,107	100.3	91.3	田 上	1,043,000	584,110	56.0	90.3
諸 江	1,471,000	633,918	43.1	89.1	東 浅 川	98,000	100,000	102.0	101.0
浅 野 川	552,000	274,310	49.7	96.3	俵	46,000	69,500	151.1	86.3
鞍 月	811,000	653,826	80.6	85.4	医 王 山	93,000	88,300	94.9	80.9
粟 崎	654,000	514,704	78.7	81.0	森 本	677,000	424,331	62.7	84.9
川 北	347,000	198,417	57.2	80.1	花 園	381,000	258,505	67.8	131.9
大 浦	947,000	532,715	56.3	93.9	湖 南	679,000	550,000	81.0	100.0
米 丸	1,706,000	954,351	55.9	94.0	薬 師 谷	362,000	287,400	79.4	103.6
新 神 田	590,000	456,693	77.4	78.8	三 谷	212,000	207,560	97.9	102.4
押 野	1,303,000	993,894	76.3	93.1	市 直 扱	0	0	0.0	—
西 南 部	1,012,000	677,583	67.0	102.6	金 沢 計	51,733,000	33,720,210	65.2	93.4

(5) 令和7年度納入会費額別会員(個人)数

地区区分名	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
金 沢 市	1264	147	67	17	1	1	0	0	0	1497
七 尾 市	2	0	2	23	0	1	0	0	0	28
小 松 市	0	0	0	12	0	0	0	0	0	12
輪 島 市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
珠 洲 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加 賀 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽 咋 市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
かほく市	31	7	5	0	1	0	0	0	0	44
白 山 市	22	3	5	16	0	0	0	0	0	46
能 美 市	13	2	1	3	0	0	0	0	0	19
野々市市	6	1	0	0	0	0	0	0	0	7
川 北 町	0	1	0	4	0	0	0	0	0	5
津 幡 町	28	0	2	0	1	2	2	0	0	35
内 灘 町	19	3	3	0	0	0	0	0	0	25
志 賀 町	64	10	5	5	0	1	0	1	1	87
宝達志水町	10	3	0	1	0	0	0	0	0	14
中能登町	13	3	0	1	0	0	0	0	0	17
穴 水 町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
能 登 町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
地区分区計	1474	181	91	82	3	6	2	1	1	1841
支部直扱	812	346	298	110	49	16	6	5	1	1643
個人合計	2286	527	389	192	52	22	8	6	2	3484

(6) 令和7年度納入会費額別会員(法人)数

	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
法 人	48	41	69	221	27	7	4	0	1	418

(7) 令和7年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数

表 彰 区 分	功 労 区 分	個 人	法 人	地区分区	計
紺 綬 褒 章	社 資 功 労	4	0	—	4
厚生労働大臣感謝状	社 資 功 労	0	0	—	0
日本赤十字社社長感謝状	社 資 功 労	7	8	—	15
金 色 有 功 章	社 資 功 労	5	2	—	7
	業 務 功 労	0	0	—	0
銀 色 有 功 章	社 資 功 労	4	6	—	10
	業 務 功 労	1	0	—	1
支 部 長 感 謝 状	社 資 功 労	3	3	6	12
総 計		24	19	6	49

3 義援金・海外救援金

国の内外において発生した災害等による被災者に対し、県民から寄せられた義援金等の受付状況は次のとおりである。

なお、(1)義援金のうち、「令和6年能登半島地震災害義援金」及び「令和6年9月能登半島大雨災害義援金」については、全国の赤十字から寄せられた合計額である。

(1) 義 援 金

災 害 等 名	件 数	金 額
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	3件	86,220円
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	3件	28,319円
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	4件	8,310円
令和7年8月6日から的大雨災害義援金	4件	9,452円
令和7年台風第12号災害義援金	2件	1,260円
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	1件	1,250円
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	2件	21,500円
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	3件	23,479円
令和7年青森県東方沖地震義援金	2件	5,506円
計	24件	185,296円

災 害 等 名	件 数	金 額
令和6年能登半島地震災害義援金	1,455件	1,782,531,775円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	166件	282,885,412円
計	1,621件	2,065,417,187円

(2) 海外救援金

災 害 等 名	件 数	金 額
バングラデシュ南部避難民救援金	1件	1,250円
中東人道危機救援金	1件	1,250円
ウクライナ人道危機救援金	6件	38,102円
2025年ミャンマー地震救援金	5件	250,386円
2025年アフガニスタン地震救援金	1件	1,250円
2025年パキスタン洪水救援金	1件	1,250円
イラン及び周辺国人道危機救援金	1件	5,000円
計	16件	298,488円

(3) 日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」(海外救援金)

災 害 等 名	件 数	金 額
N H K 海 外 た す け あ い	384件	963,588円

義援金・海外救援金 合計 2,066,864,559円

4 災害救護体制

(1) 救護班

令和7年度における救護要員の登録状況は次のとおりである。

災害対策本部要員	39人
救護班要員	69人
血液供給要員	18人
特殊救護員	5人
計	131人

救護班は8個班編成することとしている。

救護班の標準編成基準

医師	看護師長	看護師	主事	計
1人	1人	2人	2人	6人

(注) 編成については、救護業務の状況に応じ個々の基準人員を増減し、また、必要に応じ薬剤師、助産師、特殊救護員を加える。

救護班要員69人の内訳

職種	要員数
医師	8人
看護師長	8
看護師	26
主事	27

(金沢赤十字病院)

(2) 救護要員用装具の保有状況

(令和8年3月末現在)

品名	数量	品名	数量
作業衣(帽子・バンド含む)	177着	ヘルメット	37個
雨衣	56着	ヘッドライト	20個
防寒具	34着	寝袋(シュラフ)	16枚
作業靴	32着	防災ボランティア用夜光反射ベスト	80着
夜光反射ベスト	56着	防災ボランティア用ヘルメット	80着

(3) 救護用資機材の保有状況

(令和8年3月末現在)

整備区分	整備数	管 理 者				整備区分	整備数	管 理 者			
		支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区			支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区
業務無線基地局	2局	2				投 光 機	14基	14			
業務無線車載局	31局	12	3	16		簡易ベッド	165基	24	100		41
業務無線携帯局	23局	23				担 架	59基	8	10		41
アマ無線局	4局	4				簡易処置台	13台	5	8		
救 急 車	1台		1			医療セット	3組	1	2		
救 援 車	32台	4			28(1)	携帯型医療セット	2組	2			
連 絡 車	8台	1	1	6		浄 水 器	4機	1	3		
採 血 車	3台			3		簡易トイレ	10器	10			
採血検査車	3台			3		ツルハシ	2本	2			
血液輸送車	8台			8		ス コ ッ プ	4本	4			
資材輸送車	2台			2		レスキューボード	3機	3			
車両搭載用救急セット	39組	4			35	バックボード	1個	1			
救護用エアテント	3張	3				シュノーケル	10個	10			
救護テント	194張	9			185	マ ス ク	10個	10			
奉仕団テント	52張				52	フ ィ ン	10個	10			
発 電 機	9基	9									

(注) () は、令和2年度に新規購入又は更新した数量で内書き。

(4) NBC災害用資機材

(N : Nuclear 「核」、B : Biological 「生物」、C : Chemical 「化学」)

品 名	数 量	品 名	数 量
除 染 テ ン ト	1	防 護 マ ス ク	12
防 護 服 セ ッ ト	12	除 染 済 者 セ ッ ト	50
A E D	2		

(5) DMAT装備

(DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

品名	数量	品名	数量
ポータブル人工呼吸器	1	輸液ポンプ	1
ポータブル吸引器	1	簡易型心電図モニター	1

(6) 地区・分区における救援車配備・整備状況

(令和8年3月現在)

配備先	登録日	車種(型式)	配備先	登録日	車種(型式)
七尾市	R 4. 1.11	ワゴン	川北町	H17. 5.26	ワゴン
小松市	H23. 9.14	ライトバン	野々市市	R 7. 9.17	ワゴン
	H29. 9.22	ワゴン	津幡町	H25. 9.19	ワゴン
輪島市	H25. 8.30	ワゴン	志賀町	H24. 9. 6	ワゴン
	H30. 9.18	ワゴン	宝達志水町	H29. 8.24	ワゴン
珠洲市	R 6. 2.20	ワゴン	中能登町	H23.11.14	ワゴン
加賀市	H22. 9.14	ワゴン		R 5. 9.29	ワゴン
羽咋市	H29. 2.17	ワゴン	穴水町	R 3. 7.28	ワゴン
かほく市	H26. 7.23	ワゴン	能登町	H28. 3.29	ワゴン
	R 1. 7.22	ワゴン	計	22台	
白山市	R 2. 9. 4	ワゴン			
能美市	H28. 7.26	ワゴン			
	R 6.11.29	ワゴン			

(注) 平成10年度から市町又は地区・分区が取得(登録)する災害救援用車両に対し、取得費の(100万円限度)を助成している。

平成23年度より、助成額の上限を取得費の(70万円限度)に改定した。

5 災害救護・救援活動及び訓練

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨では、全国の赤十字施設の協力を得て、被災地での救護活動を行った。その後、被災地での復興支援・自立支援を目的とした、ボランティア活動を継続的に実施している。その他、各防災関係機関合同の防災訓練等への参加、救護班要員に対する研修を行った。

(1) 災害救護・救援活動

令和6年能登半島地震の支援活動において、被災者のストレス軽減および仮設住宅でのコミュニティ形成を目的とし、令和6年4月より活動を開始した。令和7年度は行政担当者と密に連携を図り、被災地の自立を尊重する伴走型の支援を継続。全国の赤十字ボランティアと共に、輪島市・能登町の仮設住宅集会所にて、ハンドケアやエフルラージュなどのリラクゼーション、健康体操、レクリエーション等を実施した。これらの活動を通じ、住民の心身のケアと新たなコミュニティ形成に寄与した。

また、能登半島地震発生後から赤十字防災ボランティアリーダー1名が奥能登地域のボランティア活動に従事し、令和8年4月現在も現地で活動を続けている。



仮設住宅でのボランティア活動の様子

(2) 防災訓練等への参加

ア 石川県原子力防災対策通信連絡演習

毎月第2水曜日に、北陸電力(株)志賀原子力発電所を発信元とし、次のルートで通報を伝達する「異常事態発生通報訓練」に参加し、医療救護班の初動体制の確保に備えた。

北陸電力(株)志賀原子力発電所 → 県危機対策課 → 県医療対策課 → 日赤県支部

イ 石川県防災総合訓練

令和7年11月2日(日)かほく市一円において実施された標記訓練に、特殊奉仕団・地域奉仕団14名が参加し、医療救護訓練とボランティアセンター運営訓練を実施した。

ウ 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練

令和7年10月11日(土)～12日(日)、福井県にて開催された標記訓練について、支部職員4名、金沢赤十字病院医療救護班1班、日赤災害医療コーディネーター1班、石川県血液センター1名が参加。日本赤十字社福井県支部と福井赤十字病院、福井県赤十字血液センターを会場に、地震被害を想定し、災害対策本部運営訓練、参集訓練、傷病者受け入れ訓練、避難所巡回・アセスメント訓練を実施した。



石川県防災総合訓練の様子



第3ブロック支部合同災害救護訓練の様子

(3) 救護員に対する研修

ア 「救護員としての赤十字看護師研修」の実施

災害時の救護業務を円滑かつ的確に遂行するため、看護師に対して研修(全7回)を実施し、新たに4名を救護員として登録した。

イ 「第3ブロック赤十字救護班研修」への参加

令和7年9月13日(土)～14日(日)に、愛知県日赤愛知災害管理センター棟にて、今後予測されている大規模災害における日本赤十字社の災害対応能力の強化を図ることを目的に研修が開催された。救護班1班と指導スタッフ4名が参加し、救護員に求められる基礎的知識と技術を学んだ。

ウ 「日赤災害医療コーディネーター研修会」への参加

令和7年8月、9月、11月にかけて、本社にて、災害時関係機関との連携及び救護班の活動調整を担うコーディネートチームの育成、能力向上を目的に開催された。病院職員2名、支部職員2名が参加し、コーディネートスタッフに求められる役割について学んだ。

エ 「こころのケア指導者研修」への参加

令和7年11月23日(土)～24日(日)に、本社にて、こころのケア活動の充実と普及指導体制の強化を目的に開催された。看護師1名が参加し、新たにこころのケア指導者として登録した。

(4) 防災教育事業

ア 赤十字防災セミナーの開催

地域奉仕団、JRC加盟校、企業を対象に、「災害への備え」「ひなんじょたいけん」「KAG(家具安全対策ゲーム)」などの講習を計14回実施。災害時の家庭や地域における課題の抽出や防災対策についての検討を行った。

6 救 援 物 資

地区・分区における救援物資の令和7年度中における被災者(火災等含む)に対する配布実績及び令和7年度末における保有数は次のとおりである。

地区分区	配布数			保有数			地区分区	配布数			保有数		
	毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット		毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット
七尾市	16	1		72	17	5	津幡町	4	3		4		
小松市	7	4		34	48		内灘町				33	12	
輪島市				10	6	10	志賀町	1	1		33	7	
珠洲市	3	1		681	708		宝達志水町				55	13	
加賀市				90	33	52	中能登町					219	18
羽咋市				2	5	8	穴水町				1160	186	
かほく市				81	14		能登町	3	1		147	47	
白山市	14	6		230	51	32	金沢市	11	4		18	12	
能美市				43	8		計	59	21		2739	1408	125
川北町				26	10		支部				590	167	1235
野々市市				20	12		総計	59	21		3329	1575	1360



7 その他救護活動

県、市町等からの依頼により、各種イベント等の会場へ奉仕団員等を派遣し、事故の防止と救護活動を実施した。

行事名	期 日	派遣延数
石川県障害者スポーツ大会	5月17日(土) 24日(土) 25日(日) 6月 1日(日)	9名
金沢百万石まつり	6月 7日(土)	149名
石川県戦没者慰霊式	8月 5日(火)	3名
野々市じょんからの里マラソン大会	10月19日(日)	3名
金沢マラソン	10月26日(日)	67名
計		231名

8 看護師養成

金沢赤十字病院における医療救護班要員の中核となる看護師を確保するとともに、医療施設要員の充足を図るため、金城大学(看護学部)生5人に対し奨学金を支給した。

大学別学生数

大学名 \ 学 年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
日本赤十字豊田看護大学	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人
石川県立看護大学	—	—	—	—	—
金城大学(看護学部)	1	1	1	2	5
合 計					5

9 救急法・健康生活支援講習等の普及

新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行したことに伴い、従来の対面講習を主とし受講者全員に実技を実施してもらう講習形態に戻して講習会を開催した。引き続き配慮を行いできる限りの感染対策を講じて講習会を開催した。

(1) 講習会の開催状況(総括)

		令和7年度			令和6年度			前年度比
		支部主催	その他	計	支部主催	その他	計	
救 急 法	基 礎	5 回	15 回	20 回	5 回	9 回	14 回	142.9 %
	養 成	4	9	13	4	7	11	118.2
	短 期	0	308	308	0	282	282	109.2
	オンライン	0	121	121	3	31	34	355.9
健康生活支援講習	養 成	2	2	4	2	1	3	133.3
	短 期	3	25	28	3	15	18	155.6
	オンライン	0	1	1	0	2	2	50.0
幼 児 安 全 法	養 成	2	0	2	1	0	1	200.0
	短 期	3	101	104	2	71	73	142.5
	オンライン	1	0	1	4	0	4	25.0
水 上 安 全 法	養 成	1	0	1	1	0	1	100.0
	短 期	0	10	10	0	5	5	200.0
雪 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	100.0
	短 期	4	0	4	4	0	4	100.0
合 計	基 礎	5	15	20	5	9	14	142.9
	養 成	9	11	20	8	8	16	125.0
	短 期	14	444	458	5	373	378	121.2
	オンライン	1	122	123	7	33	40	307.5
総 計		29	592	621	32	423	452	137.4

(2) 養成講習会等の開催状況

【救 急 法】

救急法基礎講習(4時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	4月26日	16人	16人
〃	5月15日	7	7
〃	8月9日	25	25
〃	11月8日	14	14
〃	3月7日	15	15
石川県警察学校	6月23日～25日	32	32
石川県警察学校	11月28日、12月1日、2日	21	21
金沢学院大学附属高等学校	4月8日～6月17日	104	103
金沢福祉専門学校	11月4日	20	19
第一電機工業協力会	9月12日	18	18
北陸大学	4月22日、5月13日、20日	8	8
のとセーリングアドベンチャー	7月8日	7	7
石川県トライアスロン協会	7月26日	8	8
金沢赤十字病院	9月8日	17	17
鵬学園	10月7日、14日	21	21
石川県スキー連盟	11月5日	17	17
ワンハートフィリピンコミュニティ	12月7日	16	16
専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	12月11日	32	32
石川県立田鶴浜高等学校	11月11日	16	16
石川県立田鶴浜高等学校	12月15日	35	35
計 20 回		449	447

救急員養成講習(13時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	6月14日～6月15日	11人	11人
〃	8月23日～8月24日	11	11
〃	9月13日～9月14日	10	10
〃	11月22日～11月23日	10	10
〃	3月14日～3月15日	18	17
警察学校	6月23日、24日、25日	32	32
警察学校	11月28日、12月1日、2日	21	21
金沢学院大学附属高等学校	6月24日～2月3日	102	102
金沢福祉専門学校	11月4日～11月6日	19	18
金沢赤十字病院	9月9日～9月10日	4	4
鵬学園	10月14日～12月9日	21	20
石川県立田鶴浜高等学校	11月12日～12月14日	16	16
石川県立田鶴浜高等学校	12月15日～12月17日	34	34
計 13 回		309	306

【幼児安全法】

支援員養成講習(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	5月10日、11日	12人	12人
日本赤十字社石川県支部	10月11日、12日	5	5
計	2回	17	17

講習種別	開催数	受講者数	合格者数
基礎講習	20	449人	447人
養成講習	13	309	306
計	33	758	753

【健康生活支援講習】

支援員養成講習(12時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
石川県支部	5月24日、25日	2	2
石川県支部	2月21日、22日	1	1
かほく市赤十字奉仕団	5月8日、22日、6月5日	12	9
金沢赤十字病院	6月10日、11日	2	2
計	4回	17	14

【水上安全法】

救助員Ⅰ養成(21時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
石川県支部	12月6日、13日、20日	9人	7人
計	1回	9	7

救助員Ⅱ養成(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
		人	人
計	0回	0	0

(3) 開催地別講習会開催状況

地区・分区	養成講習						短期講習				
	救急法 (基礎)	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法
金 沢 市	13 ^回	8 ^回	3 ^回	2 ^回			226 ^回	14 ^回	65 ^回	8 ^回	
七 尾 市	5	4					11		2		
小 松 市	1	1					19		4		
輪 島 市											
珠 洲 市											
加 賀 市							4	3			
羽 咋 市							1	1			
か ほ く 市	1		1				1	1	2		
白 山 市					1		19	3	6	1	4
能 美 市							1		1		
野々市市							17	4	16	1	
川 北 町							1				
津 幡 町							1		7		
内 灘 町							3	1			
志 賀 町											
宝達志水町							1	1			
中能登町							1				
穴 水 町							2		1		
能 登 町											
オンライン 講習								1	1		
合 計	20	13	4	2	1	0	308	29	105	10	4

(4) 救急法等指導員在籍状況

単位…人（令和8年3月末現在）

	赤十字職員			ボランティア	合計
	支部職員	病院職員	センター職員		
救急法	6 ^人	11 ^人	2 ^人	106 ^人	125 ^人
健康生活支援講習	2	7	0	20	29
幼児安全法	5	4	2	26	37
水上安全法	0	0	0	11	11
雪上安全法	0	0	0	15	15
計	13	22	4	178	217

(5) 指導員の研修等

指導員の資質向上を図るため、次のとおり研修会を開催するとともに、本社等が主催する研修会にも参加した。

部門別	研修会・講習会		
	支部	本社	ブロック
救急法	1 ^回	1 ^回	0 ^回
水上安全法	1	1	0
健康生活支援講習	1	1	0
幼児安全法	1	1	0
雪上安全法	0	0	0
計	4	4	0

10 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神に基づき、各分野で赤十字活動を行うことを目的として結成されたボランティアの組織である。

赤十字奉仕団には、市町等の地域ごとに結成されている「地域奉仕団」、青年や学生で組織されている「青年奉仕団」、特殊技術を持つ人たちが中心となって組織された「特殊奉仕団」がある。

石川県支部に登録されている赤十字奉仕団は、次のとおりである。

(令和8年3月末現在)

種 別	団 数	団 員 数
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	50 団	2,319 人
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	3	144
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	6	260
計	59	2,723

[赤十字奉仕団の主な活動内容]

- ① 会員増強に関する奉仕活動
社資募集
- ② 災害救護活動
救援物資の輸送・配分、被災者等への炊き出し、応急救護の支援等
- ③ 青少年赤十字にかかわる活動
研修会の援助
- ④ 献血にかかわる活動
献血推進キャンペーンの実施、献血者の受付及び案内
- ⑤ 救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法に関する活動
各種講習会での指導
- ⑥ 赤十字病院での活動
身の回りの世話、話し相手、患者の受付と案内、衛生材料づくり
- ⑦ 障害者にかかわる活動
朗読サービス、点訳、手話通訳、通学・通勤の介助送迎
- ⑧ 社会福祉施設での活動
授乳・食事の介助、行事の手伝い、話し相手
- ⑨ 国際支援に関する奉仕活動

(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和8年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
十一屋校下赤十字奉仕団	村田保夫	S49.12.8	22 ^人	11 ^人	33 ^人
馬場赤十字奉仕団	塩原吉成	S50.6.10	31	1	32
大徳赤十字奉仕団	田村政博	S51.7.16	46	26	72
三馬赤十字奉仕団	若松恵美子	S51.7.17	19	33	52
小立野赤十字奉仕団	高野健三	S51.8.17	37	34	71
金石赤十字奉仕団	越田武彦	S51.10.12	44	2	46
輪島市赤十字奉仕団	下善裕	S52.6.13	3	18	21
瓢箪町地区赤十字奉仕団	中川一	S52.7.20	37	3	40
新豎赤十字奉仕団	田中晋介	S52.11.8	1	6	7
森山赤十字奉仕団	谷村憲治	S53.7.8	3	7	10
富樫赤十字奉仕団	竹村裕樹	S53.8.1	4	16	20
小松市赤十字奉仕団	二木秀樹	S54.6.19	1	255	256
安原地区赤十字奉仕団	中瀬雅人	S54.7.19	1	11	12
戸板赤十字奉仕団	吉田和夫	S55.9.1	44	46	90
野町赤十字奉仕団	宮本哲一	S55.10.16	38	4	42
鞍月赤十字奉仕団	野村靖之	S55.11.17	24	8	32
押野赤十字奉仕団	竹田良雄	S56.5.30	21	34	55
新神田校下赤十字奉仕団	山岸正光	S57.7.10	3	0	3
長坂台校下赤十字奉仕団	高桑裕幸	S58.7.18	28	9	37
粟崎校下赤十字奉仕団	連友也	S58.9.9	17	26	43
額校下赤十字奉仕団	井山望	S59.10.18	4	17	21
西南部校下赤十字奉仕団	中川俊一	S59.11.13	16	19	35
三和校下赤十字奉仕団	橋本律子	S60.3.23	0	43	43
七尾市赤十字奉仕団	芋塚隆彦	S61.9.29	4	9	13
加賀市赤十字奉仕団	東本喜美枝	S62.3.3	0	23	23
西校下赤十字奉仕団	小竹和美	S62.10.28	0	15	15
内灘町赤十字奉仕団	一枚田美子	S63.11.10	2	24	26
米丸校下赤十字奉仕団	清造英樹	H1.5.15	30	3	33
米泉校下赤十字奉仕団	東昭男	H2.7.9	12	10	22
松任ふれあい赤十字奉仕団	谷健一	H5.9.2	7	43	50
白山市美川まつぼっくり赤十字奉仕団	新谷薫	H5.10.8	0	49	49
四十万校下赤十字奉仕団	大学正治	H6.6.20	10	17	27
崎浦地区赤十字奉仕団	杉瀬敏夫	H6.6.27	45	3	48
扇台校下赤十字奉仕団	渡辺俊晃	H6.11.27	10	15	25
金沢川北赤十字奉仕団	端浦吉治	H8.7.6	22	5	27
志賀町赤十字奉仕団	山本洋子	H8.8.20	6	127	133
能美市赤十字奉仕団	田中策次郎	H9.5.24	7	17	24
津幡町赤十字奉仕団	西田伸幸	H11.8.20	7	22	29
小坂校下赤十字奉仕団	西川義博	H13.7.22	50	16	66
弥生赤十字奉仕団	森博幸	H14.4.27	4	19	23
宝達志水町赤十字奉仕団	柏崎三代治	H15.3.17	24	67	91
かほく市赤十字奉仕団	藤田すみ子	H16.5.28	8	215	223
菊川赤十字奉仕団	寺本良之	H16.7.24	15	22	37
能登町赤十字奉仕団	的場清一	H17.5.24	2	67	69
白山ろく赤十字奉仕団	河野泰治	H18.4.17	3	24	27
鶴来ふれあい赤十字奉仕団	金丸和弘	H18.4.24	3	13	16
穴水町赤十字奉仕団	加代正	H21.11.5	9	10	19
珠洲市赤十字奉仕団	松原了啓	H21.12.11	4	23	27
羽咋市赤十字奉仕団	柳澤豊志	H22.8.26	60	27	87
夕日寺校下赤十字奉仕団	中川一成	R1.11.2	16	1	17
計	50団		804	1515	2319

(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況

(令和8年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県青年赤十字奉仕団	山田 彩千乃	S38. 4. 1	10人	17人	27人
金沢星稜大学学生赤十字奉仕団	木野 優希	H11. 4. 13	9	42	51
北陸大学学生赤十字奉仕団	橋 詩乃	H30. 4. 13	10	56	66
計	3団		29	115	144

(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況

(令和8年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県赤十字安全法奉仕団	村中 洋	S36. 8. 26	46人	66人	112人
石川県無線赤十字奉仕団	古屋 栄彦	S42. 3. 20	28	2	30
石川県赤十字雪上救護奉仕団	永井 敏昌	S53. 12. 2	10	2	12
石川県赤十字救護奉仕団	荒木 覚	S59. 6. 28	7	3	10
青少年赤十字賛助奉仕団	平田 和伸	H15. 5. 2	8	8	16
石川県柔道整復師会赤十字奉仕団	二ッ谷 剛彦	H22. 4. 25	78	2	80
計	6団		177	83	260

(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催

- ア 総会 令和7年4月24日(木) 石川県赤十字血液センター 出席者 34名
イ 役員会
第1回 令和7年4月24日(木) 石川県赤十字血液センター
ウ 機関紙発行 「赤十字奉仕団だより」 令和7年9月30日 第49号発刊
令和8年3月31日 第50号発刊

(5) 赤十字ボランティア研修会の開催

- ア 基礎研修会
令和7年10月19日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 19名
イ 委員長・副委員長研修
令和7年11月30日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 24名

(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動

- ア 「赤十字のつどい」の開催
「世界の子どもを救おう！」をテーマとして各地区奉仕団が共同でチャリティーバザーを実施した。
・加賀地区 チャリティーバザー
令和7年10月26日(日)こまつドーム
・金沢地区 チャリティーバザー
令和7年8月3日(日)アルプラザ金沢店
・能登地区 令和6年能登半島地震の影響により中止
バザー収益金で集まった390,462円は、日本赤十字社石川県支部へ寄託され、国際活動資金として活用した。

イ 肢体不自由児水泳教室に対する協力

石川県肢体不自由児協会が実施した身体障害児水泳療育訓練において、赤十字安全法奉仕団の団員が指導にあたった。

ウ 金沢百万石まつりに対する協力

百万石行列において、特殊奉仕団4団(安全法、無線、青少年賛助、柔道整復師会)や、青年奉仕団3団(青年、金沢星稜大学、北陸大学)のほか、青少年赤十字加盟高等学校11校(能登、田鶴浜、羽咋、金沢泉丘、金沢二水、金沢伏見、金沢辰巳丘、県立工業、翠星、松任、小松明峰)の合計152名が協力し、観客や参加者に対する救護や、迷子の搜索活動にあたった。

エ 金沢マラソン2025に対する協力

金沢マラソンにおいて、特殊奉仕団2団(安全法、無線)や、青年奉仕団3団(青年、金沢星稜大学、北陸大学)、5奉仕団67名がAED隊として救護活動にあたった。



ボランティア基礎研修



金沢百万石まつり

(7) 奉仕団員による支援活動

令和6年度から引き続き、仮設住宅における健康増進やコミュニティー形成支援のための活動を行った。赤十字ボランティアを全国より募集し、全国19県(延べ)の支部からボランティア派遣があった。

また、5月、6月には、NPO緑のカーテン応援団と協力して、志賀町、穴水町、能登町の仮設住宅でのグリーンカーテン設置ボランティア活動に参加し、地域奉仕団(志賀町、能登町、内灘町、金沢市額校下)、特殊奉仕団(柔道整復師会、安全法)、青年奉仕団(青年、北陸大学)、高校JRC部(能登高校、穴水高校)が協働した。



ボランティア派遣（神奈川県支部）



ボランティア派遣（富山県支部）



グリーンカーテン設置（能登町）



グリーンカーテン設置（穴水町）



グリーンカーテン設置（志賀町）

(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』

支部では令和4年度から、地域住民の健康増進を目的とした事業『ACTION！無病息災プロジェクト』を実施している。令和4年4月からはかほく市奉仕団、令和5年4月からは鶴来ふれあい奉仕団をモデル奉仕団として、遊休農地を活用した野菜づくりや、ノルディック・ウォーキング教室の開催などに取り組んでいる。



野菜づくり（鶴来）



野菜づくり（かほく市）

11 青少年赤十字

青少年赤十字活動は、児童・生徒が赤十字の精神である人道・博愛の心を理解体得し、世界の平和と人類の福祉向上に貢献出来るよう、日常の学校生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とした活動である。

「健康・安全」「奉仕」「交際親善・理解」の3つを実践目標に掲げ、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」という取り組みを行っている。

(1) 青少年赤十字の加盟校(園)の状況

区 分	令和7年度(園・校)	令和6年度(園・校)	増減(園・校)
幼稚園・保育園・こども園	2	2	0
小 学 校	106	104	2
中 学 校	47	46	1
高等学校・特別支援学校	33	33	0
計	188	185	3

幼稚園・保育園・こども園			小 学 校			中 学 校			高等学校・特別支援学校		
番号	市町名	園	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名
1	七尾市	七尾みなとこども園	1	加賀市	湖 北	1	小松市	丸 内	1	小松市	小 松
2	〃	東みなとこども園	2	〃	作 見	2	〃	松 国	2	〃	小 松
			3	〃	庄	3	〃	任 星	3	〃	小 松
			4	小松市	雅 松	4	白山市	松 任	4	〃	小 松
			5	〃	安 宅	5	〃	北 星	5	能美市	寺 井
			6	〃	犬 丸	6	〃	光 笠	6	白山市	松 任
			7	〃	荒 丸	7	〃	野 野	7	〃	翠 星
			8	〃	苗 代	8	〃	北 辰	8	金沢市	金 沢
			9	〃	蓮 寺	9	〃	鶴 来	9	〃	金 沢
			10	〃	今 江	10	〃	鳥 越	10	〃	金 沢
			11	〃	串 江	11	〃	白 嶺	11	〃	金 沢
			12	〃	日 末	12	〃	美 川	12	〃	金 沢
			13	〃	符 津	13	野々市市	野 々	13	〃	工 業
			14	〃	粟 津	14	金沢市	城 南	14	〃	金 沢
			15	〃	木 場	15	〃	兼 六	15	〃	金 沢
			16	〃	矢 野	16	〃	鳴 和	16	〃	金 沢
			17	〃	那 津	17	〃	高 岡	17	〃	星 学
			18	〃	中 津	18	〃	長 田	18	〃	ろ う
			19	〃	松 東	19	〃	浅 野	19	〃	い し
			20	〃	東 陵	20	〃	芝 原	20	〃	かわ 特別
			21	〃	能 美	21	〃	西 南	21	〃	医 王 特別
			22	〃	朝 日	22	〃	犀 生	22	〃	明 和 特別
			23	白山市	松 任	23	〃	長 町	22	津幡町	津 幡
			24	〃	旭 南	24	〃	長 町	23	内 灘	内 灘
			25	〃	松 南	25	〃	長 町	24	羽 昨	羽 昨
			26	〃	湊 日	26	〃	森 高	25	七尾市	七 尾
			27	〃	朝 日	27	〃	高 尾	26	〃	七 尾
								緑 台	27	〃	田 鶴

28	〃	明	光	28	〃	北	鳴	28	〃	鵬	学	園
29	〃	陽	陽	29	〃	大	徳	29	〃	七	特	支
30	〃	越	越	30	〃	額		30	輪	島	市	輪
31	〃	島	陽	31	〃	清	泉	31	能	登	町	能
32	〃	松	嶺	32	〃	内	川	32	珠	洲	市	飯
33	〃	白	屋	33	〃	金	錦	33	穴	水	町	田
34	〃	蝶	陽	34	〃	沢	泉					水
35	野々市市	御	園	35	〃	紫	錦					
36	〃	富	陽	36	かほく市	宇	ノ					
37	〃	館	野	37	津幡	津	幡					
38	〃	菅	原	38	羽咋	羽	咋					
39	〃	野	市	39	〃	宝	志					
40	金沢市	泉	野	40	達志水町	宝	富					
41	〃	十	一	41	志賀町	七	尾					
42	〃	犀	立	42	七尾市	七	七					
43	〃	小	野	43	〃	能	登					
44	〃	中	央	44	〃	中	能					
45	〃	中央	芳	45	〃	能	登					
46	〃	長	田	46	中能登町	能	登					
47	〃	明	成	47	能登町	能	登					
48	〃	小	坂									
49	〃	千	野									
50	〃	浅	川									
51	〃	鞍	月									
52	〃	大	野									
53	〃	大	野									
54	〃	浅	野									
55	〃	戸	板									
56	〃	押	野									
57	〃	三	馬									
58	〃	富	樫									
59	〃	額	上									
60	〃	田	園									
61	〃	花	寺									
62	〃	不	浦									
63	〃	湯	野									
64	〃	南	小									
65	〃	木	立									
66	〃	三	野									
67	〃	西	和									
68	〃	米	部									
69	〃	四	泉									
70	〃	〃	方									
71	〃	〃	台									
72	〃	伏	見									
73	〃	〃	緑									
74	〃	内	川									
75	〃	朝	台									
76	〃	犀	川									
77	〃	杜	里									
78	〃	金	町									
79	〃	大	浦									
80	〃	兼	六									
81	津幡町	英	野	田								
82	〃	萩	栗	台								
83	内灘町	向	粟	崎								
84	〃	鶴	ヶ	丘								
85	〃	大	根	布								
86	宝達志水町	押	水	桜								
87	〃	志	枝									
88	羽咋市	羽	ノ	保								
89	〃	粟	北	穂								
90	〃	瑞	台	知								
91	〃	西	知									
92	〃	邑										
93	志賀町	志	賀									
94	中能登町	鹿	西									
95	七尾市	小	丸	山								
96	〃	山	山	王								
97	〃	天	神	山								
98	〃	朝		日								
99	〃	東		湊								
100	〃	石		崎								
101	〃	和		倉								
102	〃	田	鶴	濱								
103	〃	中	登	島								
104	〃	能	原	田								
105	輪島市	河	原	西								
106	〃	門	前									
計	2	園	計	106	校	計	47	校	計	33	校	

(2) 指導体制の充実・強化

ア 会議等

- (ア) 青少年赤十字指導者協議会総会・研修会
令和7年5月27日(火) 石川県赤十字血液センター 14人参加
- (イ) 青少年赤十字指導者協議会役員研修会
令和8年3月3日(火) 日赤石川県支部 8人参加
- (ウ) 青少年赤十字指導者研修会
令和8年3月3日(火) 日赤石川県支部 現地・オンライン 19人参加
後日動画視聴 23人参加
- (エ) 第3ブロック青少年赤十字指導者協議会会長及び支部担当者研究会
令和7年6月20日(金) 日赤石川県支部(オンライン) 1人参加
- (オ) 全国青少年赤十字指導者協議会総会
令和7年7月4日(金) 日赤本社 1人参加

(3) メンバーの活動状況

ア 会議等

- (ア) 県高校JRC協議会
第1回 令和7年4月26日(土) 石川県立金沢辰巳丘高校 12校57人参加
第2回 令和7年9月6日(土) 石川県立金沢錦丘高校 12校81人参加
- (イ) 第46回石川県高等学校JRC大会
令和7年6月6日(金) いしかわ子ども交流センター 12校180人参加
- (ウ) 第24回石川県高等学校文化連盟JRC部赤十字救急法競技大会
令和7年9月20日(土) 石川県赤十字血液センター 12校83人参加

(4) 国際理解・親善活動

令和7年度はモルディブ共和国のメンバー2名を石川県支部で受け入れた。加盟校の高校生との交流会、県内赤十字3機関や令和6年能登半島地震の被災地の見学などを行った。また、ホームステイや高校生によるの観光地の案内など、県内のJRCメンバーと触れ合う機会を多く設けることができ、国際親善の良い活動となった。

ア 国際交流事業(石川県受入れ)

令和7年10月25日(土)～30日(木) 石川県内各所

イ 国際交流事業(JRC・RCY International Meeting TOKYO2025)

令和7年10月30日(木)～11月3日(月)

国立オリンピック記念青少年総合センター 1校1名参加

(5) ボランティア活動

1円玉募金

児童館や福祉施設の訪問

仮設住宅グリーンカーテン設置ボランティア 等

(6) 普及活動

ア 高文連JRC部への活動助成

イ 活動紹介機関紙「石川青少年赤十字ニュース」の配布(県内全学校〈小・中・高・特別支援学校〉)

(7) 指導用教材資料の貸し出し

防災教育教材、紙芝居、ネパールの水がめ、地雷模型、地雷関係パネル、松葉杖、盲人用杖、アイマスク、義足など



赤十字救急法競技大会



国際交流事業 (金沢学院大学附属高校)



国際交流事業 (県立工業高校)



国際交流事業 (県立小松明峰高校)

12 国 際 活 動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と緊密な連携のもとに、現在も世界の各地で起きている武力紛争や地震等の自然災害による犠牲者等の救援のため、物資や資金の援助及び開発協力要員の派遣を行っている。

石川県支部では、日本赤十字社の活動を支援するとともに、第3ブロック支部共同事業として、「アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業(H22年～)」、「レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業及び医療技術支援事業(R5～)」及び「南部アフリカ地域 感染症対策事業(R7～)」に対して援助を行った。

また、被災者等に対する義援金の受付を行うほか、赤十字奉仕団員による「NHK海外たすけあい」街頭募金活動を実施し、本社へ送金した。

日赤第3ブロック支部 共同事業内容

1. レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業及び医療技術支援事業
レバノン赤十字が全国9州の一次医療サービス向上を目的に貧困層が多く医療ニーズが高い19のPHC(プライマリーヘルス・センター：予防や基本的な治療を行う施設)の修繕やサービスの改善する事業を支援する。
2. 南部アフリカ地域 感染症対策事業
同地域における感染症や気候変動の影響を軽減し、健康と福祉を改善するための支援を提供する。
3. アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業
洪水やサイクロンなどの災害が増加している同国において、迅速に給水・衛生活動が展開できるよう、国際赤十字・赤新月社連盟が開発した「給水・衛生キット」を配備し、スタッフの研修を実施する。

日赤第3ブロック支部 共同事業実績額

年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)	年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)
R2	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R5	レバノンプライマリーヘルス・スケールアップ事業及び医療技術支援事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域 2ヵ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域 3ヵ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	6,000,000	300,000		アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000
R3	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R6	レバノンプライマリーヘルス・スケールアップ事業及び医療技術支援事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域 3ヵ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域 3ヵ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	6,000,000	300,000		アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000
R4	シリア難民支援事業	8,000,000	440,000	R6	レバノンプライマリーヘルス・スケールアップ事業及び医療技術支援事業	6,000,000	320,000
	東アフリカ地域 3ヵ国保健強化事業	6,000,000	330,000		南部アフリカ地域 感染症対策事業	4,500,000	240,000
	アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	6,000,000	330,000		アジア・大洋州 給水・衛生 災害対応キット整備事業	4,500,000	240,000
	計	20,000,000	1,100,000		計	15,000,000	800,000

13 医 療 事 業

高齢化社会が進む中、病院経営を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いているが、国は社会保障費の伸びを抑制しつつも、国民が安心して医療を受けられる医療制度を実現するため2年毎に診療報酬改定を行ない医療機関等の誘導を行っており、各医療施設においては、制度の変更に対する確な対応を行うことが重要な課題となっている。

当院においては、令和5年8月に令和4年度の診療報酬改定で新たに設けられた「紹介受診重点医療機関」の指定を受け、令和6年4月から本格運用を開始し、紹介患者数や救急車受入件数の増加に加え、外科や整形外科での手術件数が増加したことで入院患者も増加し、令和6年度の医業収益は前年比7.3%増と大きく改善することができた。

令和7年度においても、この「紹介受診重点医療機関」としての機能を更に強固なものとし令和6年度を上回る医業収益を目指してきたところであるが、結果的には、新入院患者の減少に加え平均在院日数の短縮により医業収益は、前年比7.4%減と非常に厳しい結果となった。

この入院患者の減少については、現在のところ明確な要因は判明していないが、近隣の医療施設においても、当院と同様に昨年度と比較し入院患者が大きく減少しており、この現象はコロナ禍以降、全国的な問題となっているとの指摘もある。

この様な収益の減少に加え、物価や人件費の加速度的な上昇が全国の医療機関等において経営を非常に困難なものとしており、国内の主要病院団体6組織が厚生労働大臣に対し、病院経営の危機的状況を訴えるとともに、令和7年度中の緊急支援策としての補助金交付に加え、令和8年度の診療報酬改定率10%超を求める緊急要望書を提出する事態となっており、政府は、令和7年度中の補助金交付や、令和8年度の診療報酬のプラス改定を決定するに至った。

令和7年度中の補助金については、当院が対象となる全てのものを申請し、多大な交付を受けたが、高騰した物価や人件費を補いきれる金額ではなく、本業部分となる医療事業損益においては、医業収益の減少が大きく影響し、前年度と比較し約3億8千6百万円の悪化となった。しかし、非キャッシュ性である退職給付債務の会計処理により当期利益が改善されてはいるが、実際には赤字経営が続いているのが実情である。

その様な状況を打破するため、当院においては、令和8年度の診療報酬改定を的確に取り込み、更に病棟再編等の対策により収益増加を図るとともに、コスト削減についても重要課題として捉え、全職員が一丸となり経営改善に向け努力を続けていきたいと考えている。

令和7年度の主な事業

1. 地域医療との連携強化
 - (1) オープン・クリニカルカンファレンス
〔7/11(金)、12/5(金) 当院及びwebによるハイブリッド開催〕
 - (2) 開放病床運営委員会・地域医療連携懇話会〔11/18(火) 金沢東急ホテル〕
2. 診療機能の向上及び維持
 - (1) 自動採血管準備システムの更新
 - (2) 血圧脈波検査装置の更新
3. 医療機器整備
全自動尿中有形成分分析装置、解析付心電計 他9点

令和7年度における患者数等は次のとおりである。

(1) 患者数

科別	年度	令和7年度		令和6年度		対前年度増減	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
入院		62,085人	170.1人	70,742人	193.8人	△ 8,657人	△ 23.7人
(新入院患者数)		3,488	9.6	3,854	10.6	△ 366	△ 1.0
外来		113,112	469.3	119,425	493.5	△ 6,313	△ 24.2

(2) 診療科別患者数

(入院)

科別	年度	令和7年度		令和6年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		29,619人	81.1人	36,817人	100.9人	△ 7,198人	△ 19.7人
外科		5,332	14.6	5,568	15.3	△ 236	△ 0.6
整形外科		11,767	32.2	11,445	31.4	322	0.9
脳外科		865	2.4	1,562	4.3	△ 697	△ 1.9
眼科		385	1.1	465	1.3	△ 80	△ 0.2
産婦人科		95	0.3	159	0.4	△ 64	△ 0.2
小児科		227	0.6	236	0.6	△ 9	△ 0.0
皮膚科		1,185	3.2	1,182	3.2	3	0.0
放射線科		—	—	—	—	—	—
麻酔科		—	—	—	—	—	—
リハビリ科		11,846	32.5	12,578	34.5	△ 732	△ 2.0
泌尿器科		764	2.1	730	2.0	34	0.1
計		62,085	170.1	70,742	193.8	△ 8,657	△ 23.7

(外来)

科別	年度	令和7年度		令和6年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		47,796人	198.3人	51,378人	212.3人	△ 3,582人	△ 14.0人
外科		7,520	31.2	8,199	33.9	△ 679	△ 2.7
整形外科		6,738	35.3	6,737	35.1	1	0.2
脳外科		1,518	6.3	1,692	7.0	△ 174	△ 0.7
眼科		4,562	18.9	4,731	19.5	△ 169	△ 0.6
産婦人科		3,626	15.0	3,972	16.4	△ 346	△ 1.4
小児科		2,667	11.1	2,863	11.8	△ 196	△ 0.7
皮膚科		4,282	17.8	4,901	20.3	△ 619	△ 2.5
放射線科		160	0.7	213	0.9	△ 53	△ 0.2
麻酔科		490	2.0	483	2.0	7	0.0
リハビリ科		26,295	109.1	26,691	110.3	△ 396	△ 1.2
泌尿器科		7,458	30.9	7,565	31.3	△ 107	△ 0.4
計		113,112	469.3	119,425	493.5	△ 6,313	△ 24.2

(3) 診療単価等

科別	年度	令和7年度	令和6年度	対前年度増減	
				金額	率
患者1人1日 当たりの収入	入院	49,327円	円	2,140円	4.5%
	外来	13,691円	13,951円	△ 260円	△ 1.9%
病床利用率		70.0%	79.8%	—	—
平均在院日数		16.8日	17.4日	—	—
再掲(急性期病床)		9.6日	10.2日	—	—

14 医療・保健等の社会事業

金沢赤十字病院においては、病院経営の重要な部分として、医療・保健衛生等の社会事業を積極的に展開しているが、令和7年度における活動状況は、次表のとおりである。

活動の種別	延対象者数	活動の種別	延対象者数
糖尿病教室	82 人	すこやか検診	549 人
栄養指導	1,021	一般検診	3,087
健康講座	0	成人病健診	4,744
訪問看護	2,759	日帰りドック	772
訪問リハビリ	2,061	宿泊ドック	27

15 血液事業

令和7年度は、県民の皆様のご理解とご協力のもと、安心・安全な輸血医療を支える血液事業に継続して取り組んでまいりました。多くの方々に献血へご協力いただき、関係機関と連携しながら血液の安定供給できましたことに深く感謝申し上げます。

今後においても、能登半島地震の影響が依然として残る状況および、少子高齢化がますます進んでいく現状を踏まえ、将来にわたる安定した献血基盤の構築に向けた事業運営を進め、血液を必要とするすべての県民の皆様に、安定的かつ安全な輸血医療を提供できる体制の確立を目指し、信頼される血液事業の推進に努めてまいります。

(1) 安全な血液製剤の安定供給

① 需給管理の充実

医療機関との連携や情報共有の充実に努め、血液製剤の需給予測の精度向上を図るとともに、需要に応じた適切な採血を推進した。

また、医療現場のニーズに対応できる質の高い需給管理を行うため、職員の情報・意識共有の仕組みづくりや教育を推進した。

② 安全性の確保

血液製剤を保管する冷凍・冷蔵設備や運搬車両等設備機器の適切かつ確実な管理運用に努め、故障・緊急時の対応や安全運行等に関する教育訓練を徹底し、常に安全で高品質な血液製剤を供給した。

③ 血液製剤の適正使用の推進

石川県合同輸血療法委員会の活動や石川センターでの研修を通じて、医療機関への情報提供や技術指導の充実に努め、適正使用の一層の推進を図った。

④ 災害時における体制の充実

特に奥能登地方の医療機関に対し、医療体制や輸血状況を把握するとともに

に、地域の実情に即した輸血用血液製剤を安定的に供給できる体制の構築を図った。東海北陸ブロック地域内において高い確率で発生が危惧されている東海・東南海地震等の大災害に対しても、危機管理ガイドラインに基づき、ブロック内全血液センターと連携し、合同で災害訓練を実施、交通インフラの確保等手順の再確認、訓練の成果や改善点を確認した。また、石川県防災総合訓練には、日本赤十字社石川県支部、金沢赤十字病院等と連携のうえ参加し、緊急時の対応に備えた。

(2) 献血者の安定的確保

① 普及啓発活動

- ア 献血の必要性を広く周知し、献血協力のきっかけとなるよう、様々な年代層をターゲットとした各種献血キャンペーンを展開した。
- イ 若年層にアピールし、血液事業に共感と興味を持ってもらえる情報誌等印刷物の発行に努めた。
- ウ ホームページの一層の活用を図り、求められる情報がリアルタイムでスムーズかつ正確に閲覧できるよう、管理の徹底や内容の充実に努めた。

② 若年層献血者確保対策

- ア 県や教育委員会の協力のもと、主に高校生や大学生を対象として、献血の基礎知識を伝え献血への協力意欲を醸成するため、献血セミナーを年間25回開催した。さらに中学生を対象とした献血セミナーも年間6回開催した。
- イ 医療や福祉を学ぶ高校、看護学校、専門学校の学生を対象に、授業の中で献血の必要性や血液事業への理解、研修等への参加を呼び掛けた。
- ウ 移動採血の渉外活動において、事業主や献血担当者に対し若年層献血者確保の重要性を丁寧に説明し、協力を求め、若年層従業員への呼びかけ拡大、強化に努めた。
- エ 若年層のニーズに沿った献血記念品の選定や、若年層限定献血キャンペーンなど、若年層が献血に関心を寄せるきっかけとなるような企画や広報を積極的に展開した。
- オ 石川県学生献血推進委員会と協働することにより、同委員会の一層の活性化を図り、取り組みの一つである同世代への献血推進活動をサポートした。
- カ 大学・短期大学等の教職員と学生献血推進ボランティア、石川県赤十字血液センター職員で構成する石川県学生献血推進連絡会による学生献血推進ボランティアの活動への支援を強化した。
- キ ブロック血液センターや管内地域センターと情報・意見交換を行い、先進的な事例を検証して取り入れ、効果的な若年層献血者確保対策を実践した。

③ 献血登録者の拡充

- ア 継続的な献血協力を推進するために、メール及びLINEで献血者にこまめな依頼要請や情報提供を行うとともに、「ラブラッド」会員(アプリ・Web)新規会員の確保に努め、年度末会員数が32,385人となった。
- イ 血小板製剤の県内自給を目指し、医療機関の要望に確実に応えられるよう、血小板成分献血の要請応諾者拡充に努めた。また、HLA型の登録を推進し、高品質な血小板製剤の供給に努めた。

ウ 献血ルームをはじめ、移動採血でも約99%の会場で献血の事前予約枠を設け、献血者の利便性を向上するとともに安定的かつ継続的な血液の確保に努めた。

④ 献血者の安全確保

ア 献血時におけるインフォームドコンセントを徹底し、献血者の健康状態に十分配慮した採血に努めた。

イ VVR等採血副作用の予防に細心の注意を払うとともに、副作用が発生した場合の措置について教育訓練を徹底した。

ウ 採血課職員の日本輸血・細胞治療学会が認定する「アフエレーシスナース(成分採血認定看護師)」の認定取得に積極的に取り組んだ。

⑤ 献血者への健康管理サービス

低ヘモグロビン等により献血できなかった献血申込者への栄養士による健康相談を実施し、献血者の健康指導に努めた。

⑥ 災害時における献血の確保

ア 出張所、移動採血車の展開

災害発生地域においても、出張所や移動採血車を迅速に展開し、献血募集を開始した。

イ 緊急献血キャンペーンの実施

緊急献血キャンペーンを実施し、血液供給を促進した。その際、マスメディアやSNSを活用して、有用性を広く周知した。

ウ 事前の血液確保

常時、十分な血液在庫の確保に努める。また、他の地域からの補助や輸送体制をシミュレーションし整えておく。

エ 医療機関との連携強化

献血組織と医療機関で災害発生時の血液需要や供給状況を共有し、協力して効果的な対応を行った。

(3) 効率的な事業運営

① 400mL献血の推進

医療機関のニーズに応じた供給を行うため、全血献血は400mLを基本とし、相対的に使用頻度が少ない200mL献血を抑制したところ、全血献血に占める400mL献血の割合が約94%となった。

② 移動採血1稼働あたりの採血効率の向上

献血実施企業団体やライオンズクラブ等の献血協力団体との連携を強化し、1稼働あたりの採血数を増やし、必要な血液量を確保するなど採血効率の向上に努めた。

③ 献血ルームの事業改善

ア 献血ルームの全血献血の向上に取り組むとともに、血液製剤の需給状況を踏まえた適切な成分献血者確保に努めた。

- イ 献血推進・予約システム(CMS)を活用した予約献血を推進し、献血者の利便性向上に努めた
- ウ 血小板製剤の献血後3日運用を促進するため、曜日別の適切な採血数を設定し、計画に沿った採血数の確保に努めた。

④ 成分献血の効率化

- ア 血小板成分採血において、分割血小板採取の比率向上を図り、採取率52.9%確保した。
- イ 循環血液量に応じた最大限の血漿確保を推進し、血漿成分献血における1本あたりの平均採取血漿量は575.2mL、血小板(血小板+血漿)採血における1本あたりの原料血漿採取量は、分割製造用204.9mL、非分割製造用346.4mLを確保した。

⑤ 供給体制の効率化

臨時配送便を削減するための医療機関との協議を進め、定期便率の向上を図った。

また、輸血用血液製剤の受発注における過誤発生の防止を目的に、インターネットで受発注するWEB発注システムの導入を推進し、現在受発注の8割以上がWEB発注システムを利用したものとなった。

(4) 持続可能な血液事業(事業の活性化)の推進

① 人材育成・人事交流

職員の日本赤十字社石川県支部及びブロック血液センターとの職員交流及び統一的な研修体制の整備に努め、職員の能力向上を促進した。

② 研修教育機能の充実

ブロックセンター石川製造所と連携し、血液事業全体を研修できる血液センターとして、研修医の受け入れ及び衛生看護科の学生については研修を実施することにより、血液事業の新しい担い手や安全な輸血医療の担い手を引き続き確保・拡充した。

③ 経営改善の取組と事業運営の活性化

血液事業特別会計の継続的な財政運営を図るため、職員一丸となって「カイゼン」活動に積極的に取り組むとともに、事業評価結果に基づき事業の質的向上及び事業の効率化を推進し、事業運営の活性化を図った。

(5) 造血幹細胞事業の推進

石川県や県内ボランティア団体(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会)と連携して、骨髄バンク登録の支援に努め、登録者の増加を図った。

(6) 献血・血液製剤供給状況等(令和7年度)

① 市町別献血状況(令和7年度)

市町別	献血目標				献血者数実績				達成率
	200mL	400mL	成分	合計	200mL	400mL	成分	合計	
金沢市	140人	5,842人	—人	5,982人	342人	5,890人	—人	6,232人	104.2%
七尾市	20	580	—	600	37	636	—	673	112.2
小松市	74	2,500	—	2,574	128	2,761	—	2,889	112.2
輪島市	10	250	—	260	9	375	—	384	147.7
珠洲市	5	150	—	155	11	230	—	241	155.5
加賀市	25	880	—	905	34	983	—	1,017	112.4
羽咋市	9	310	—	319	6	402	—	408	127.9
かほく市	13	420	—	433	17	520	—	537	124.0
白山市	93	3,185	—	3,278	87	3,486	—	3,573	109.0
能美市	20	670	—	690	33	798	—	831	120.4
野々市市	48	1,050	—	1,098	101	1,195	—	1,296	118.0
川北町	6	170	—	176	6	178	—	184	104.5
津幡町	15	480	—	495	53	516	—	569	114.9
内灘町	3	80	—	83	6	101	—	107	128.9
志賀町	17	490	—	507	16	594	—	610	120.3
宝達志水町	2	60	—	62	1	108	—	109	175.8
中能登町	7	220	—	227	5	301	—	306	134.8
穴水町	2	90	—	92	4	110	—	114	123.9
能登町	2	150	—	152	10	177	—	187	123.0
小計	511	17,577	—	18,088	906	19,361	—	20,267	112.0
くらつき	200	4,250	8,274	12,724	191	3,803	8,594	12,588	98.9
ル・キューブ	321	4,150	8,152	12,623	518	3,882	8,051	12,451	98.6
合計	1,032	25,977	16,426	43,435	1,615	27,046	16,645	45,306	104.3
令和6年度合計	850	27,050	17,900	45,800	1,688	27,136	17,016	45,840	100.1

② 献血者の内訳(令和7年度)

【種類別・性別】

種類区分	性別	献血者数
200mL	男性	216人
	女性	1,399
	計	1,615
400mL	男性	20,217
	女性	6,829
	計	27,046
成分	男性	12,128
	女性	4,517
	計	16,645
合計		45,306

【年齢別】

年齢区分	献血者数
16～19歳	2,269人
20～29歳	6,007
30～39歳	5,908
40～49歳	9,437
50～59歳	14,634
60～69歳	7,051
合計	45,306

【職業別】

職業区分	献血者数
公務員	6,971人
会社員	26,766
学生	4,169
その他	7,400
合計	45,306

【性別】

区分	男性	女性	合計
献血者数	32,561人	12,745人	45,306人

【献血登録者】 ラブラット会員含む

	A型	O型	B型	AB型	不明	合計
Rh(+)型	27,875 人 (29)	23,091 人 (43)	16,832 人 (25)	7,692 人 (8)		75,490 人 (105)
Rh(-)型	275 (3)	263 (5)	192 (2)	100 (0)		830 (10)
合計	28,150 (32)	23,354 (48)	17,024 (27)	7,792 (8)	1,761	78,081 (115)

() 内は、まれ血の再掲

③ 血液製剤供給状況(令和7年度)

令和7年度中の血液製剤供給本数は、200mL献血換算数で134,629本、その内訳は次のとおりである。

製剤名	供給数	供給数						計	構成比		
		1単位	2単位	4単位	5単位	10単位	15単位			20単位	
全血製剤	照射人全血液-LR	本	本	本	本	本	本	本	単位	%	
	照射人全血液-LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0	
	全血製剤計	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0	
成分製剤	赤血球製剤	照射赤血球液-LR	1,549	21,237	-	-	-	-	-	44,023	32.7
		照射洗浄赤血球-LR	3	24	-	-	-	-	-	51	0.0
		照射解凍赤血球-LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0
		照射合成血-LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0
		計	1,552	21,261	-	-	-	-	-	44,074	32.7
血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR	326	6,221	373	-	-	-	-	14,260	10.6	
	計	326	6,221	373	-	-	-	-	14,260	10.6	
血小板製剤	照射濃厚血小板-LR	0	0	-	166	7,294	12	0	73,950	54.9	
	照射濃厚血小板HLA-LR	-	-	-	1	102	0	1	1,045	0.8	
	照射洗浄血小板-LR	-	-	-	-	130	-	-	1,300	1.0	
	計	0	0	-	167	7,526	12	1	76,295	56.7	
	血液成分製剤計	1,878	27,482	373	167	7,526	12	1	134,629	100.0	
合計(単位)		1,878	54,964	1,492	835	75,260	180	20	134,629	100.0	
令和6年度(単位)		2,008	60,518	1,084	495	83,410	315	40	147,870		

④ 原料血漿確保量(令和7年度)

原料血漿確保目標量 11,071 L 確保量 11,386 L

(令和6年度目標量 12,521 L)

16 決 算 状 況

(1) 令和7年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書

歳 入

科 目		予 算 現 額			決 算 額	収入未済額	予算現額に 比し増減
		当初予算額	補正予算額	計			
社資 収入	一般社資収入	円 138,000,000	円 39,332,000	円 177,332,000	円 226,770,815	円 0	円 49,438,815
	法人社資収入	12,000,000	8,000,000	20,000,000	24,278,937	0	4,278,937
計		150,000,000	47,332,000	197,332,000	251,049,752	0	53,717,752
委託金等収入		0	0	0	1,756,103	0	1,756,103
補助金及び交付金収入		5,182,000	0	5,182,000	3,983,273	0	△ 1,198,727
災害義援金預り金収入		0	2,065,418,000	2,065,418,000	2,065,417,187	0	△ 813
繰入金収入		19,953,000	584,258,000	604,211,000	584,257,351	0	△ 19,953,649
雑収入		6,579,000	0	6,579,000	6,151,935	0	△ 427,065
前年度繰越金		19,600,000	27,835,000	47,435,000	47,435,029	0	29
合 計		201,314,000	2,724,843,000	2,926,157,000	2,960,050,630	0	33,893,630

歳 出

科 目		予 算 現 額				決 算 額	翌年度 繰越額	不用額
		当初予算額	補正予算額	流用増減額	計			
災害救護事業費		円 27,347,000	円 2,426,550,000	円 0	円 2,453,897,000	円 2,448,878,212	円 0	円 5,018,788
社会活動費		54,768,000	0	0	54,768,000	47,374,542	0	7,393,458
国際活動費		800,000	364,000	0	1,164,000	1,164,000	0	0
指定事業地方振興費		0	364,000	0	364,000	364,000	0	0
地区分区交付金支出		18,468,000	0	0	18,468,000	13,681,000	0	4,787,000
社業振興費		28,027,000	0	0	28,027,000	24,568,320	0	3,458,680
基盤整備交付金・補助金支出		0	500,000	0	500,000	500,000	0	0
積立金支出		5,607,000	278,762,000	0	284,369,000	284,213,934	0	155,066
総務管理費		36,763,000	0	0	36,763,000	31,200,949	0	5,562,051
資産取得及び資産管理費		5,487,000	3,200,000	0	8,687,000	7,895,822	0	791,178
本社送納金支出		22,200,000	15,103,000	0	37,303,000	37,302,862	0	138
予備費		1,847,000	0	0	1,847,000	0	0	1,847,000
合 計		201,314,000	2,724,843,000	0	2,926,157,000	2,897,143,641	0	29,013,359

歳入歳出差引残額(翌年度繰越額) 62,906,989円

(2) 令和7年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

金沢赤十字病院

科 目		決 算 額
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	3,062,471,476 円
	室 料 差 額 収 益	88,455,400
	外 来 診 療 収 益	1,548,584,552
	保 健 予 防 活 動 収 益	156,114,619
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0
	そ の 他 の 医 業 収 益	49,153,347
	保 険 等 査 定 減	△ 15,385,641
	小 計	4,889,393,753
医 業 費 用	材 料 費	1,109,193,466
	給 与 費	2,647,971,898
	委 託 費	471,138,983
	設 備 関 係 費	637,854,343
	研 究 研 修 費	14,785,470
	経 費	289,209,703
	小 計	5,170,153,863
医 療 事 業 損 失	△ 280,760,110	
医 業 外 収 益	264,270,515	
医 業 外 費 用	11,495,180	
医 業 外 利 益	252,775,335	
医 療 社 会 事 業 収 益	28,800	
医 療 奉 仕 費 用	85,700,693	
医 療 社 会 事 業 損 失	△ 85,671,893	
付 帯 事 業 収 益	29,910,584	
付 帯 事 業 費 用	35,866,979	
付 帯 事 業 損 失	△ 5,956,395	
特 別 利 益	33,143,041	
特 別 損 失	37,534	
特 別 損 失	33,105,507	
法 人 税 等	0	
収 益 的 収 入 合 計	5,216,746,693	
収 益 的 支 出 合 計	5,303,254,249	
当 期 純 損 失	△ 86,507,556	

17 日本赤十字社石川県支部役員名簿

(令和8年4月25日現在)

役職名	氏名	当初就任年月日	選任回数	至任期	備考
支部長	山野之義	令和8.3.27	1	令和11.3.26	石川県知事
副支部長	村山卓	令和4.3.15	2	令和10.3.14	石川県市長会 会長
副支部長	前哲雄	令和7.7.31	3	令和10.7.30	石川県町長会 会長
副支部長	塗師 亜紀子	令和7.4.1	1	令和10.3.31	石川県健康福祉部長
評議員	※荒木 龍平	平成19.2.14	7	令和10.2.13	石川県日赤紺綬有功会 会長
評議員	※吉田 國男	平成22.2.14	6	同上	財団法人石川県社会保険協会 理事
評議員	※明石 寛治	令和4.2.14	2	同上	株式会社明石合銅 相談役
評議員	※田上好道	平成26.2.14	5	同上	石川県商工会連合会 顧問
評議員	※能木場由紀子	平成20.4.23	7	同上	石川県婦人団体協議会 会長
評議員	※寺本 良之	令和3.4.24	3	同上	赤十字奉仕団石川県支部委員会 委員長
評議員	前千代子	令和4.4.1	2	同上	金沢市校下婦人会連絡協議会 副会長
評議員	西倉 隆一	令和8.4.1	1	同上	金沢市消防団連合会 会長
評議員	吉本 忠則	令和7.12.1	1	同上	金沢市民生委員児童委員協議会 会長
評議員	高柳 晃一	令和5.6.29	2	同上	金沢市社会福祉協議会 会長
評議員	林 充男	令和3.5.31	3	同上	金沢市シルバー人材センター 理事長
評議員	山田 啓之	令和4.6.22	2	同上	金沢市副市長
評議員	小浦 敏登	令和6.9.9	2	同上	金沢市公民館連合会 副会長
評議員	中川 一成	令和2.4.1	3	同上	金沢市町会連合会 会長
評議員	浦上 光太郎	令和6.4.1	2	同上	金沢市老人連合会会長
評議員	茶谷 義隆	令和2.11.14	3	同上	七尾市長
評議員	宮橋 勝栄	令和3.4.13	3	同上	小松市長
評議員	二木 秀樹	令和7.4.10	1	同上	小松市町内会連合会 会長
評議員	坂口 茂	令和4.3.19	2	同上	輪島市長
評議員	泉谷 満寿裕	平成18.6.12	8	同上	珠洲市長
評議員	山田 利明	令和7.10.30	1	同上	加賀市長
評議員	岸 博一	令和2.11.1	3	同上	羽咋市長
評議員	油野 和一郎	平成16.4.12	8	同上	かほく市長
評議員	田村 敏和	令和5.4.23	2	同上	白山市長
評議員	松本 祐紀	令和5.4.27	2	同上	白山市町会連合会 会長
評議員	井出 敏朗	平成29.2.27	4	同上	能美市長
評議員	栗 貴章	平成19.6.10	7	同上	野々市市長
評議員	田西 秀司	令和7.7.31	1	同上	川北町副町長
評議員	生田 勇人	令和7.2.14	1	同上	内灘町長
評議員	高下 栄次	令和7.6.15	1	同上	宝達志水町長
評議員	宮下 為幸	令和3.4.3	3	同上	中能登町長
評議員	吉田 義法	令和7.4.10	1	同上	能登町長
監査委員	岸 弘市	平成12.2.21	9	令和9.2.20	産業カウンセラー
監査委員	高澤 良英	平成27.2.21	4	同上	七尾商工会議所 常任顧問
監査委員	武田 純	令和5.11.1	1	令和8.10.31	株式会社武田工業所 取締役顧問
本社代議員	田谷 正	令和4.2.14	2	令和10.2.13	医療法人社団田谷会 理事
本社代議員	持木 一茂	令和7.2.14	1	同上	石川県人事委員会 委員長
本社代議員	富久尾 佳枝	令和7.2.14	1	同上	金沢商工会議所 常議員
本社理事	持木 一茂	令和8.4.1	1	令和11.3.31	石川県人事委員会 委員長

※印は支部長選出評議員

(順不同、敬称略)

役職名	氏名	当初就任年月日	備考
支部参与	酒井 雅洋	令和 8. 4. 1	石川県副知事
支部参与	浅野 大介	令和 6. 7. 1	石川県副知事
支部参与	福田 年通	令和 8. 4. 8	石川県健康福祉部次長
支部参与	表 英登志	令和 7. 4. 1	石川県健康福祉部厚生政策課長
支部参与	出村 久志	令和 8. 4. 8	石川県健康福祉部医療支援課長
支部参与	原田 仁史	令和 8. 4. 8	石川県健康福祉部薬事衛生課長
支部参与	吉田 克也	令和 8. 4. 25	津幡町長
支部参与	稲岡 健太郎	令和 7. 2. 14	志賀町長
支部参与	吉村 光輝	令和 7. 2. 14	穴水町長
支部参与	小林 敏明	令和 7. 4. 1	金沢市町会連合会事務局長
支部参与	普赤 清幸	令和 元. 7. 2	金沢商工会議所専務理事

(順不同・敬称略)

支 部 長	1 名	本 社 代 議 員	3 名
副 支 部 長	3 名	本 社 理 事	1 名
評 議 員	32 名	支 部 参 与	11 名
監 査 委 員	3 名	計	54 名

